

7

1997. 5

# 薬友会報

千葉大学薬友会

Back Forward Home Reload Load Images Open... Print... Find... Stop

Location: <http://www.p.chiba-u.ac.jp/>

What's New? What's Cool? Destinations Net Search People Software

Photograph by Fumio Kato 1997.5.5

Japanese Version English Version

(ホームページ)

Welcome to Our Faculty

(図書室のワークステーション)

<http://www.p.chiba-u.ac.jp/>

|                       |      |
|-----------------------|------|
| 薬友会会長就任にあたって .....    | 2    |
| 退官・新任あいさつ .....       | 2・3  |
| 特集(医療薬学動き出す) .....    | 4・5  |
| 会員だより .....           | 6    |
| サークル紹介(薬学サッカー部) ..... | 6    |
| 研究室紹介 .....           | 7    |
| クラス通信 .....           | 8~14 |
| 支部だより .....           | 15   |
| 亥鼻会・あのはな山岳会 .....     | 15   |
| 萩庭文壽先生ご逝去を悼む .....    | 16   |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 坂口武一先生を偲ぶ .....       | 16 |
| 薬友会より .....           | 16 |
| 学部だより .....           | 17 |
| 卒業生の進路・               |    |
| 薬学部入学者出身校別一覧 .....    | 18 |
| 職員の異動 .....           | 18 |
| 学会賞受賞者一覧 .....        | 19 |
| 学位授与者一覧 .....         | 19 |
| 生涯教育セミナー開催のお知らせ ..... | 20 |



この度、計らずも教授会の推薦により学部長を務めることになりました。

世は将に行政改革をはじめとして大改革の嵐の中にあります。またマルチメディア、クローム技術など科学および応用面での急激な進歩によって時の流れは益々早まり、日常生活にも年々新しい風が吹き込む忙しい時代が到来しました。全国の薬学部もこの渦中にあり薬学部の6年制構想が検討されてきましたが、その第一歩として臨床薬剤師の養成を目指した医療薬学系教育およびその制度の充実に力が注がれています。本学部でもこの線に沿った改革が進められて、遂に本年4月、大学院に医療薬学専攻科が誕生しました。この新しい革袋にどんな美酒を注ぎ込めるか、いよいよ我が薬学部の真価を問われています。老朽化した校舎には先に設置された薬用資源教育研究センターが仮住居していますが、更にこの組織が同居することになります。しかし、建物の新営に関しては千葉大学のリストラ案の浮上により敷地の選択等の難問に直面しております。何よりも心強いことは百年を超える歴史と伝統に支えられ、鍛えられてきた若い教官のエネルギーが研究面では第一線で活躍していることです。この緊急時に非力、非才の私が学部長として出来ることはまず学部全体の和を保ち、力を結集することだと自覚しています。現状を正確に把握し、母校の理想に一步一步近づくために薬友会会員の皆様のご支援をお願いする次第です。

## 退官に際して

### 石井永教授の御退官に際して

薬品製造学研究室 石川 勉



石井永先生には、昭和43年に故池田仁三郎名誉教授が担当しておられた薬品化学（現薬品製造学）研究室に助教授として赴任され、以来29年間の永きに亘って、教育と研究の両面において千葉大学薬学部の発展に貢献されてきました。

先生の千葉大学での御研究は多岐に亘りますが、「サンショウ属を中心としたミカン科植物成分研究」は、先生のライフワークとも言えるものです。特に、この成分として得られるベンゾフェナンスリジン型アルカロイドは精力的に研究されました。また、フィシャー・インドール合成やフレミー塩酸化にも優れた業績をあげられました。

先生は学問を極めて大切に考えられ、研究だけでなく教育にも真面目にかつ情熱的に取り組まれました。先生の講義は厳しいことで有名でしたが、その反面判り易いことでも評判でしたので、先生が最終講義をなさなかったことが残念でなりません。

先生が一日でも早く御元氣になられますことを心より祈念致します。



### 活性構造化学研究室

山崎 幹夫

私は父がかつて千葉薬専を卒業したというだけの理由で半ば無理矢理に千葉大学薬学部に入學しました。それで、3年生になって萩庭丈寿先生にお会いするまでの私は一刻も早く大学を逃げ出すことばかりを考えていました。文学か美術をやりたいかったのです。そんな私に先生は忍耐強く有機化学や植物学の素晴らしさを教えて下さり、お蔭で私はどうやら無事に大学を卒業することができました。

生物活性研究所から移って参りましたのは、今から10年前でした。あるパーティーに出席された先生はわざわざ私を探し求められ、ぽつりと「君がこの教授になってよかった。それだけを言いたかった」とおっしゃいました。私は不覚にも人前を忘れ、あふれる涙を止めることができませんでした。先生に認めていただいたことが嬉しかったのです。

退官に際して、私の胸は色々な方々に申し上げたい色々なことで一杯です。でも私は薬学を学び母校の教授として履歴の最後をしめくることができた感謝を、昨年急逝された萩庭丈寿先生に真っ先に捧げ、また非才のために折角のご期待に沿えなかったことを先生と皆様に心からお詫びしたいと思うのです。



退任記念祝賀会（平成9年2月21日）

## 新任教授紹介



### 生化学研究室 小林 弘（昭和49年東京大学大学院博士課程修了）

平成8年4月1日付で、廣瀬教授の後任として就任いたしました。生化学研究室は、廣瀬両教授による長い歴史を持つ研究室であり、多くの傑出した卒業生を世に送り出してきました。このような研究室を引き継ぐことは私には荷が重すぎますが、生化学研究室をより発展させるために微力を尽くしたいと考えております。幸い、廣瀬教授のもとで講師を務めておりました懸川友氏氏が、引き続き当研究室内の助教授に昇任させて頂き、また1月からは斎藤浩助氏がスタッフに加わりました。3人で力を合わせ、教育、研究に邁進したいと考えております。現在、薬剤師教育の見直しが求められておりますが、基礎研究の重要性は高まりこそすれ低下することはないはずです。生物の基礎的活動を分子レベルでとらえ、それを理解するための学問として生化学、生理化学を更に発展させていきたいと考えております。薬友会の皆様のご支援を宜しく御願い申し上げます。



### 薬物学研究室 千葉 寛（昭和50年千葉大学薬学部卒業、昭和52年千葉大学大学院修士課程修了）

昨年5月1日より佐藤教授の後任として薬物学研究室を担当することになりました。北川教授の時代に薬物学研究室を築立ち、19年ぶりに懐かしい母校に戻って参りました。

薬学は医薬品の創製、生産、管理及び使用を包括する広い学問領域ですが、医薬品の使用に関わる研究と教育は残念ながら、我が国の薬学においては立ち後れていると言わざるを得ません。幸い、千葉大学薬学部にも本年度から医療薬学の大学院が発足し、当研究室もその構成研究室の一つに加わることになりました。私はこれまで、臨床薬理学を専門領域とし、特に薬物代謝及び動態の面から薬物療法の改善と進歩に寄与することを目指して研究を行って参りました。今後は、これらの研究をさらに発展させると共に、広い意味での医療の担い手となる人材を育成するために、研究と教育に専心したいと考えております。薬友会会員の皆様方の暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



### 薬品製造学研究室 石川 勉（昭和47年千葉大学薬学部卒業）

私は故池田仁三郎名誉教授、石井永教授に続き、昨年8月より薬品製造学研究室を担当することになりました。私は1972年3月に当学部を卒業し、同年11月より薬品製造学研究室の教務職員として採用されて以来、一貫して当学部で御世話になっております。またこの度縁がありまして、さらにこれからも御世話になることとなりました。

現在、教育改革が盛んに叫ばれております。また、薬学についても病院実習の必修化等、取り巻く環境が大きく変化しつつあります。このような時こそ地に足を付けて、千葉大学薬学部の将来をしっかりと見据える必要があるものと思います。はなはだ微力ではありますが、先輩や同窓生の皆様のお力をお借りし、伝統ある母校の発展のために、努力致す所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



# 医療薬学動き出す



## 「医療薬学専攻」の発足



千葉大学薬学部教授 畝本 力 (前薬学部長)

医薬分業の進展と医療の高度化に伴い、医療チームの一員としての薬剤師の活躍が望まれている。このような状況は医薬品をめぐる科学の急速な進歩により、有効で安全な薬物治療に薬剤師の高度な専門知識が必要不可欠となってきたことによる。本薬学部ではこのような社会の要請に答えるべく、学部教育でのカリキュラムの改善、卒後教育、薬剤師生涯教育に尽力してきた。しかし、新しい医療体制における患者指向の薬学を実践的に教育・研究するには大学院博士課程につながる高度な研究能力の開発が必要とされる。薬学部ではかねてより従来の大学院に加えて「医療薬学専攻」の設置に努力してきたが、平成9年度より独立専攻として発足することとなった。本専攻は前期2年18名、後期3年8名の博士課程であり、薬物治療学および医薬品情報学講座が新しく認められ、これに薬学部から臨床化学、薬物学、生物薬剤学および医学部附属病院から薬剤部(病院薬学)が協力講座として参加する。今後、本専攻科修了生の医療現場での活躍が大いに期待される。

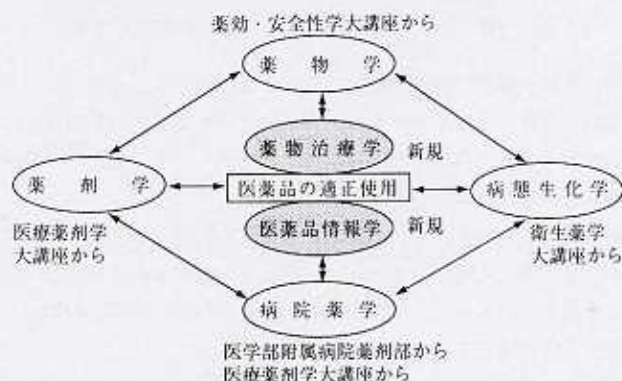
## 医療薬学とは何か



日本薬剤師研修センター 小川 道孝 (昭和34年卒)

医療薬学とは何か? 一見、単純そうなこの問いの答えは、薬学者の間でも一様でない。一応の解答は、平成6年6月に出された「薬剤師国家試験制度改善検討委員会最終意見」の中にある。それには「医療薬学」とは、医療に直接関係し薬剤師としてその職能を発揮するために必要な知識・技術の基本になるもので、1「医療薬学総論」、2「疾病と病態」、3「医薬品の有効性と安全性」及び4「薬剤の調製と医薬品の管理」の4つの大項目に分類される。この中で2と3の中項目、小項目を見ると、2では中2-小15、3では中6-小17となり、小項目が極めて細かく分類されている。2では疾患別、3では薬剤別の区分が目立つ。即ち、疾病の成因と病態生理を修め、併せてその治療に使用される薬物の特徴を学び、真に患者のQOL向上のための薬剤師業務に役立てる学問が医療薬学といえよう。

## 医療薬学専攻を構成する各講座の相互関係



## <新しいスタッフ>

### ○薬物治療学講座

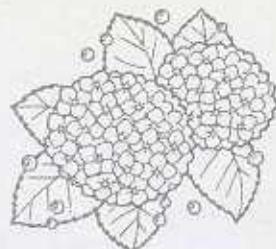
教授 矢野 眞 吾

助教授 上 野 光 一

### ○医薬品情報学講座

教授 上 田 志 朗

助教授 望 月 眞 弓



## 大学と医療現場の密接な交流を



東京女子医科大学病院薬剤部 武立 啓子（昭和48年卒）

薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しています。ことにインフォームド・コンセントに代表されるように、医療全体が患者情報の開示を求める方向にシフトしつつある中、4月からは薬剤師に患者への医薬品情報提供義務が加わるなど、その社会的責務はさらに増大しています。近年、臨床業務をはじめとして大きな広がりを見せている薬剤師業務ですが、それらは薬剤師が臨床現場で、基礎薬学を基盤として多くの場合試行錯誤を重ねながら独自に実現したものにはなりません。このような中で、薬学教育にも患者重視の医療薬学が本格的に取入れられ始めたことは、時代の要請とはいえ、薬剤師を支援する心強い動きといえます。今後は、大学と臨床現場が密接に交流を重ね、医療薬学教育が実り多いものとなることを期待しています。

## 後輩に望むこと



千葉大学医学部附属病院 松島 徹（平成7年卒）

自分が千葉大学に入学した時は、「卒業生の半分は進学、残りもほとんどは製薬会社に就職して、病院を希望するのは一人か二人」と言われました。その時と比べて、今の薬学部のカリキュラムを見ると薬学部に要求されている教育内容が、だいぶ医療薬学が重視されたものになっているのを感じます。

大学で学んだ4年間、薬を「物質」として捉える方向での講義は十分に受けてきたと思います。しかし、卒業して2年が過ぎ、医療の現場にいと、患者の病態と治療薬を結び付けて考えるための知識は不足していることを痛感させられます。

4月からは、調剤薬への情報提供が義務化され、薬剤師の責任も今以上に増大します。これからは病棟活動を目指す後輩も増えると思いますが、患者や他の医療従事者、そして社会から必要とされる薬剤師を目指して欲しいと望んでいます。

## 医療チームの一員として



薬学部4年 岩佐 郁子

私が実習を行った病院は外来処方をはほぼ100%院外処方とし、薬剤師の業務は主に入院患者への服薬指導、TDM業務、薬品管理などであった。それほど大きな病院でなく入院患者数も決して多い方ではなかったが、それでも患者全員の薬に関する管理を完璧に行うのは大変なことであると実感した。病棟活動の見学では服薬指導や医師、看護婦とのカンファレンスなどを見せていただいたが、コンプライアンスの向上や副作用への配慮、治療方針の把握等どれをとっても「患者本位の医療」のためには労力を惜しまないという感じが伝わってきた。外来処方がなく調剤の実習はほとんど行わなかったが、手術の見学や製薬会社による医薬品説明会、訪問看護などの業務を体験して、大学の講義にはない医療薬学の知識を得ることができ、また、今日の在宅医療の問題や医療チームの一員としての薬剤師の役割など、「今後の課題」として考える良い機会となった。

会員だより

医薬英語の和英辞書を作りました

大島 幸助 (昭和33年卒業 元バイエル薬品㈱)



製薬企業の日常業務で技術上の英語文を書くとき、一般の辞書では専門用語が乏しく不十分で、実用例文を豊富に掲載した専門の和英辞書がないものかと常々思っていました。私は日ごろ英語論文・専門雑誌で参考になる文例や用語を見つければカードにメモし、必要に際し利用していました。定年退職の3年前、貯まったカードが段ボール箱2箱分に膨らみ、利用しずらくなりましたので、自宅に少しづつ持ち帰り、ワープロで整理を始めましたところ、求める和英辞書が自分で作れそうに思えてきました。それからの5年間余暇をフルに活用し辞書作りに没頭し、幸いこの間に本学山崎幹夫教授(監修)、再就職先ヤンセン協和㈱モートン社長(英文校閲)のお力添えを得、昨秋(1996)丸善㈱より「医薬英語用例辞典」として上梓することができました。国際交流の著しい医薬分野で、本書がお役に立つことを願っております。

留学を終えて

小口 敏夫 (昭和57年卒)



こんな広い家に一人で住むなんて、とってもムダなこと(……?)

私が一年あまり滞在していた英国ブラッドフォードは、「嵐が丘」の舞台、ハウースの近くに位置しており、周囲にはヨークシャー特有の緩やかな丘陵に沢山の羊が草をはむ長閑な風景が広がっています。そんな美しい環境の中、ブラッドフォード大学では余裕をもって研究生活を送っている教授や講師たちの姿が印象的でした。これには秘書やテクニカルスタッフの充足が一因であることは確かですが、そもそも生活に対する考え方の違いが根本にあるように思えます。例えば「能率」ということを考えます。日本的な意味で能率を上げるといふと、ムダを徹底的に省き、各人の仕事の密度を濃くすることを目的としているのに対して、英国流では、仕事を能率的に終わらせること、それは生活に余裕を持たせるための手段に過ぎないのでしょうか。非常に「能率的な」日本での生活に戻って8カ月が過ぎ、英国流の「むだの多い」生活をちょっぴり懐かしく思い出す今日この頃です。



サークル紹介  
「薬学サッカー部」

平成7年に設立されたばかりですが、気楽に楽しく活動しています。活動内容としては月に1回位試合をしたり、大学祭のサッカー大会に出場したりしています。また、冬には週一回朝練もしています。このように、忙しい薬学部の生活の中で合間を見つけてサッカーを楽しんでいます。(文責 山梨陸毅)



## 研究室紹介

### 製剤工学研究室



平成8年度の製剤工学研究室は、山本恵司教授、小口敏夫助教授、米持悦生助手の職員と、博士後期課程6名、博士前期課程6名、4年生5名、研究生1名さらに短期留学生2名という総勢20名以上の大所帯で、この中には中国からの留学生1名、タイからの留学生4名が含まれています。

私たちの研究室は従来から固体医薬品について、有効性の高い製剤を得るための基礎的研究、特に製剤中の分子状態に注目した分子製剤学的研究を行っています。具体的には、医薬品のメカノケミストリー、多孔性粉体に存在する医薬品分子の諸性質、医薬品の凍結乾燥、密封加熱によるシクロデキストリン包接化合物の調製、医薬品光学異性体の物理化学的性質の検討、薬品非晶質状態のキャラクタリゼーションなどがあります。また、小口助教授は8年6月、イギリス、ブラッドフォード大学での研究を終え帰国しましたし、米持助手は9年3月よりロンドン大学留学へ出発するなど、新たな研究分野にも意欲的に取り組もうとしています。

研究の他にも、東邦大学薬剤学教室との合同セミナー、東大、東薬大、東理大等との野球大会などを通じた交流も積極的に行っており、視野を広く持ったバランスのとれた研究者となれるよう頑張っています。研究室の詳細につきましては、ホームページ <http://www.p.chiba-u.ac.jp/lab/seizai/> をご覧ください。

(米持 悦生)

### 病院薬学研究室



病院薬学研究室は3号館2階にひっそりと位置し、北田光一教授、大森 栄助教授、石井伊都子助手の3名のスタッフと、大学院生5名を中心とした見かけは小さな研究室です。教授・助教授は附属病院の薬剤部長・副薬剤部長を兼任しています。そのため、西千葉キャンパスは2人を除くメンバーで構成されていますが、共同研究推進政策を掲げ、積極的に他の研究室との交流を図っているためいろいろな顔が出入りし、ところ狭しと熱いdiscussionをかわしています。

当研究室では薬学と医学の境界領域に注目しつつ、“有用で安全な薬物治療”を目指し研究しています。テーマとしてはP450を中心とした薬物代謝酵素に関する研究と病態発症機序の解明という2本柱を立てています。前者は、特に胎児の持つP450に焦点をあて、胎児の毒性発現機構を提示し、更に薬物代謝酵素が関係する薬物相互作用も追跡しています。後者は、動脈硬化症をテーマに発症・進展機序の解明をすると共に治療薬の開発を心がけています。ヒト病気一薬の正しい関係を作り上げていくためにはまだまだ知らないことがたくさんあります。知りたいこと、知るべきことを頭の中で整理し、「できるところから始め、できるだけ貪欲に」をスローガンに研究を進めていきたいと思っています。

(石井伊都子)

# クラス通信

## 昭和2年卒業

昭二会も数年前に当地鴨川で催しまして7、8人お集りくださいましたのを最後に次々とお亡くなりになり、今では函館に在住の野又章様一人、年に一度の賀状を楽しみにして居ります。

薬友会の今後の御発展をお祈り申し上げます。  
(古川 進)

## 昭和5年卒業

五葉会の現在員17名(関東9、東北1、中部4、関西3)。毎年5月、年一回のクラス会、最近は年々欠席者多く平成7年の出席者僅かに6名。平成8年は会員、家族の何れかに支障者が続出し遂に開催を中止した。従来会合で最も多かった年は20数名に達したけれども年々減少の状態である。本年は不変と喜んでいた所が12月中旬頃の情報により残念ながら一名4月に他界者あり、とうとう嫌喜びに終わった。

(石田 新)

## 昭和8年卒業

八千葉会は昭和八年卒業以来64周年を迎えました。正会員14名、家族会員27名の現在数です。1996年の例会は湯河原で昔話を時を過ごしました。石井良之助君も体調を整えて出席されて正会員4名家族会員2名の楽しい集いでした。1997年は6月小田原市内に予定しています。吉田義幸君の連



続当番ご苦労様です。今年は二桁人数の出席を期待しています。  
(前納 勇)

## 昭和9年卒業(昭九会)

年をとるということは誠になさけないと、つくづく感じる。

年に一回は必ず続けていた会をいろいろな都合で開けなくなったのもその故である。今年こそは、今年こそはといくら考えていても環境が熟せねば開くわけにはゆかず残念である。

本人が寄る年波で出られなくなったり、或は家族の都合で無理であったり、いろいろの原因がある。

昭九会も残念ながら今年も開催できなかった。そして又一人クラスメートを失ってしまった。小諸居住の柳田克彦氏である。

来年のことを云うと鬼が笑ふと謂われるが、来年こそは何としても出られる者だけでも、顔を合せたいと考えている。

こんな情ない便りを出すことをお許し願いたい。  
(中村晃蔵)

## 昭和13年卒業(亥丘会)

1. 平成8年8月12日小野口邦夫君が他界した。御冥福を祈る。

1. 明年は卒業60周年に当るので、次の事業を計画している。

- (1) 60周年記念文集の発行  
(今年秋に原稿を募集する。)
- (2) 記念クラス会の開催  
(明年気候のいい時に東京で開催したい。)

追記：瀬尾善之君が去る2月24日、急性心不全のため急逝されました。御冥福を祈ります。

(藤沢栄一)

株式会社 カイノス

取締役会長 杉 山 茂

〒113 東京都文京区本郷2-38-18

Tel (03) 3816-4123

人類に価値ある  
新薬づくり、三共



三共株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町3-5-1 TEL 03-5255-7111

### 昭和14年卒

例年の如く11月定例会合を行いました。8月1名を失い23名のメンバーですが、地方在住者が多く次第に歩行のやや不自由となった者もあり参集者は8名であった。

全く医者に縁のない大変元気でパソコンを買って目下勉強中と意欲満々としたのしい人も居り、直腸癌、肺癌で手術を受け且糖尿病で毎日インシュリンの自己注射をしながら、ゴルフを月に8回をこなす猛者もいて多才々です。今後も年1回はなるべく多くの方々を集って頂く予定です。(小山義郎)

### 昭和15年卒業(二六会)

君塚 清君から葉書が来た。(8年12月11日付)。ご承知かと思いますが、笹本道利氏が亡くなりましたね。下山氏に次ぎ級友がまた減って、ますます淋しいですね。在学中、軍事教練の際に中村七朗君(故人)と2人でラッパを吹いてくれた姿を思い出しています。70才を過ぎてもバイトをやるほどのモサだったのですが…。(註)平成元年夏、千葉をざわでの二六会が最後でした。ご冥福をお祈り申し上げます。(石丸正美)

### 昭和16年3月卒業(一葉会)

平成8年を振り返る。  
3月14日 池田仁三郎君、逝去。彼は吾々クラスの情報源でした。又大勢の方々から愛された幸福な人生だったと思います。合掌  
4月3日 新宿西口、談話室滝沢に集り、午後の一ときを過ごす。出席者、海老根、秋山、稲沢、山岸、小林(正)、今村、向井、滝本(療養中で、お孫さんが付添って出席)以上8名。  
10月1日 小林正彦君、東京都知事より、功労者表彰を受ける(保健衛生)。お祝い申し上げます。

11月に鳴子温泉行決行寸前に、現地の世話役大沼君の突然の病気で、中止。幸にご本人が軽快されたので、来春に繰越し実行の予定。

追記、加齢現象で、体の不調を訴える方が、多くなりました。健康管理を大切に。(向井廣澄)

### 昭和16年12月卒業(宣葉会)

卒業のとき50名のクラスメート、現在は21名が健在で、がんばっています。

昨年10月17日に、日本橋でクラス会を開き、原田、君塚、大瀬、国友、安田、春日、塚原、三田、林知夫、西口、古山の11名が出席。その席で、本年は三田君のお世話で6月に盛岡市で開くことがまりました。多数ご参加下さい。なお、河内、駒崎の2人が他界されました。皆さん、どうかお元気で。(安田英夫)



### 昭和17年9月卒業(翠葉会)

平成8年当初は級友28名でした。ところが4月7日、高木皓次君急逝。4月9日、藤井善三郎君宿病の為逝去。7月22日、雨宮久明君昨年来の病で逝去。服喪の葉書で藤井秀一君、12月14日急逝を知り、悔み状を滂沱の涙で書きました。朗報は北田武三君が勲四等瑞宝章を頂いた事です、彼も只今病氣と奮闘中です。  
6月2日、新宿駅ビル「好麗」でクラス会を開催し13名出席、福山より19年振り、藤井君の親友宗田君が、新潟から丸山君が出席した。(堤 保二郎)

### 昭和20年卒業(るつぽ会)

平成8年度は定例のクラス会を恒例の上野ホーライ園にて開催、下記の13名(大谷、田村、玉木、中川、西川、宮崎、山田(精)、山本、横田、吉田、渡辺、

人々の健康と幸福に奉仕する



シオノギ製薬

大阪市中央区道修町3-1-8 〒541

いのち、ふくらまそう。

第一製薬株式会社

東京都中央区日本橋三丁目14番10号

本宮、原)のご参加のもと、大変賑々しく、楽しい一夜を過ごしました。海外特別クラス会は、7月17日～23日の6泊7日で、桂林・広州・香港デラックス旅行を実施致しました。坂本、田村、当山、原、の4名が参加しただけでしたが、各地の観光と料理に、素敵な思い出を残すことが出来ました。

尚、本年は下記、2名の訃報に接しました。

田中健太郎君 平成8年1月

仁平尚正君 平成8年4月

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。(原 文男)

### 昭和23年卒業

毎年秋に開いていたクラス会を、96年は5月25日(土)に新橋の「新橋亭」で開催した。春の方が秋より薬業界の各種行事が多いせいか、現役で活躍している連中の欠席が多かった他、当日の病欠者が複数出て、例年より若干少ない16名の出席を得た。



然し、今回は常連の他に、卒業後2回目の出席の越後湯沢の高橋君、数振りの清水、塚本、山下君の参加があり、玄鼻や臥豚屈を肴に会は大いに盛り上がった。二次会は例年の如く神楽坂。

「出席者氏名」井上富夫、植草茂男、海野弘文、大塚亨、岡田次男、鹿島明、菅場忠一郎、清水正夫、杉本圭之助、高橋久男、塚本義二、原田忠明、三浦清、安井恒男、山下鈴一、渡部吉郎

今年のクラス会は秋に開きますので奮ってご参加下さい。(三浦 清)

### 昭和24年卒業

本年は10月20日片貝に程近いサンライズ九十九里に

おいて1泊でのクラス会を行った。出席者は16名で宴席では、それぞれの近況報告や欠席者の消息、学生時代に思いをはせて話題が付きなかった。宴後もさらに語り合うもの、囲碁に興ずるものなど楽しく旧交を温めあうことができた。翌朝には、素晴らしい御来光を拝することもできて、朝食後、次年度の幹事を選出、また元気な姿での再会を約して解散した。(伊藤正一)

### 昭和25年卒業

平成8年度のクラス会を10月に片倉工業の熱海保養所で開催、14名で会食・観光に旧交を温めました。霧に包まれた大観山の中で歌う追憶歌は懐かしいものでした。この頃では年1回のクラス会を待ちこがれる気持ちもできました。学窓の諸先輩にならって、各々の職場で活躍した戦士達が、ゆっくりと昔を懐かしむゆとりが出来たからです。別れの言葉はサヨナラではなくて、元気でまた来年会いましょうでした。

(小森 正)

### 昭和26年卒業

平成9年度、26回るのはな会を恒例により、熱海山木旅館で4月10日開催、毎年一回一夜を温泉につかり、元気でお互いの無事と近況を語り合い、薬学、薬業界の発展を祈ります。

卒後46年を経て、白髪とみに増えるも肌のツヤは未だ輝きを失わずに居る友の姿に会える喜びは捨てがたい。万障繰り合わせての全員参加を切に期待したい。

(福島 靖)

### 昭和28年卒業(千葉薬二八会)

昨年2月「医者の不養生」とでも云おうか、畏友羽鳥兄が亡くなられ思いがけず有志の方々が集まることになってしまった。その為か、何となくお互いに無音

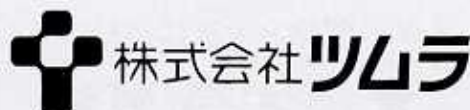
## 武田薬品工業株式会社

本社

〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

東京本社

〒103 東京都中央区日本橋二丁目12番10号



〒102 東京都千代田区二番町12番地7  
TEL. 03(3221)0001(大代表)

に打過ぎてしまった様である。

それと云うのも、薬学を志して意気揚々と社会に出て、大いに活躍された同志達も、その後定年を迎へ、又第二の職場を得た方も退職するなど、本人の気付きぬまま何時しか老人と呼ばれる仲間に入れられ、自営で活躍されている方々を除いては、草冠（取りはずし自由？）を外した生活に入った方も多くなった為かも知れません。

今後も今迄貯えた薬の知識が世の為に役立てられれば良いのですが、自分の為には正直云って、薬の世話にならず元気で生きてゆきたいものですね。その為にも、たまには皆んな集って賑やかに楽しく歓談したいものです。

何時も幹事役をして頂いている、今野兄、尾中兄が気をもんでおられますので、その節は是非奮ってご参加下さい。積極的に「脳内ホルモン」発散しよう！

（飯田 實）

#### 昭和29年卒業

山崎（母校）村松（医科歯科）が65才を迎え今年定年となる。大多数は数年前より第二、第三の勤務か、悠々自適（進学、文筆活動）に入った。薬局経営の8名は医薬分業に挺身している。医師への処方箋交付義務も但し書により無意味となって約50年、今正に実現の運びとなりご同慶の至りである。藤井が昨年鬼籍に入り、都合7名となった。我々戦中戦後に発育期を迎えた者の平均余命は良き時代を過ごした人達と差があるのか知りたい。

（比留間和夫）

#### 昭和31年卒業（千葉薬三一会）

平成8年10月10日～12日に23名が、霧島、桜島、指宿と南九州の旅に参加し旧交を温めました。12月には、クラス雑誌「蒸発皿」の卒後40年記念号が出版され、

在学中の4冊と合わせて5冊になりました。座談会で往時をしのび、アンケートで現状と未来を見つめたものです。40年間クラスの固い結束が維持出来たのは、クラス全員の協力と共に、事務局を担当した馬場英子さんのおかげです。改めて感謝します。（星 昭夫）

#### 昭和32年卒業

今年3月、卒業してから40年を経過したので、この秋に記念のクラス会を開催すべく準備をしている。

多くの人が集まりやすいように、土曜日の午後に東京でと考えている。

20世紀最後のクラス会（次回は2002年の予定）であるから、札幌・盛岡・金沢・愛知・福知山・大阪・西宮からも是非出席してほしい。

旧友との5年ぶりの再会が楽しみである。

（片岡久男）

#### 昭和33年卒業

平成8年度は還暦クラス会として例年より早く4月15日（土）「日本橋倶楽部」で開催した。幹事は内田、岡田、早藤。遠くは佐渡から脇野さんを初め、31名の多数が参加した。全員の近況報告があり還暦後も皆それぞれの道で活躍中であった。古木君に各人の元気な姿を撮っていただき後日配布。又今回より名簿にE-mailを追加、既に3名が登録。閉会後なんと21名は神田で二次会となり、相変わらず元気なクラスであった。

（早藤 弘）

#### 昭和34年卒業

本同期会（現会員38名、物故会員9名）は、毎年、会員希望の日時・場所で開かれている。平成8年度の



**トアイヨ株式会社**

〒104 東京都中央区京橋3丁目1番2号  
電話 03(3281)3888

株式会社 常盤植物化学研究所

代表取締役 立 崎 隆  
(昭和41年卒)

〒285 千葉県佐倉市木野子158  
TEL 043-498-0007

開催地（10月4日金曜日）は遙か北海道の小樽であったが、幹事2名を除く16名（直前欠席3名）が、夫人・ご母堂の同伴もあり、関東・関西・東北から直接空路で、また三々五々、函館、ニセコ回りで参加した。生憎、小雨混じりの寒い一日ではあったが、海鮮料理で盛り上がり、小樽運河沿いのホテルで遅くまで旧懐に耽った。来期開催地は湘南、千葉など関東地区を予定している。（藤平栄一、中島良徳）

#### 昭和35年卒業（珊瑚会）

毎年還暦を迎える人がある珊瑚会。毎年会を持つことにし、昨年に続き1996年4月13日、紳士17淑女5名の22氏が東京駅ルビーホールにて歓談した。会って話している間に、だんだん昔の顔に戻るから不思議である。分類すると、相変わらず組み、転職組み、英気充電組み。これからの夢を語る者の他、病気や健康管理の報告などは、年令の反映か。記念撮影し、二次会は近くの国際観光ホテルのバーで。また来年の再会を約束。（塩野谷 博）

#### 昭和36年卒業

今年はクラスの大半が還暦を迎える（現役は除く）節目の年です。昨年はクラス会はありませんでしたが、近況では先ず第一に、昨年10月に川上京子さんが長年の薬剤師会活動の功績が評価され、千葉県知事から「薬事功労者」として表彰されました。業界紙で拝見し、早速お祝いの電話をしたら、その応待の声が若々しく娘さんかと間違えた程でした。また、阪神大震災で被害に遭われた林毅君は、昨年秋に不自由な生活から新築の家に移り、やっと落ち着かれました。村上泰興君は東邦大薬学部長3年目で、学内外共に多忙の様ですが、先日電話で、今年はクラス会を秋頃までには是非やろうと話合いました。（高橋哲夫）

#### 昭和37年卒業

私たちクラスの昨年最大の慶事は井上圭三教授（東大薬）が「高等動物における脂質の動態と機能に関する生物化学的研究」で日本薬学会賞を受賞されたことです。心からお祝い申し上げますと共に、今後の益々の活躍を期待しております。

さて、昨年はクラス会を隔年開催する年でしたが、今年に延期してしまい、クラスの皆様に申し訳ありませんでした。今年は開催しますので、是非ご出席下さい。（西沢林蔵）

#### 昭和40年卒業

悲しいお知らせです。昨年の4月30日に滝西恵津子（旧姓陳）さんが交通事故に遭遇し帰天されました。スペインのバレンシアをご主人と一緒に車で旅行中の出来事でした。5月19日カトリック五井教会でご夫妻の葬儀告別式が行われましたが、参会者の多くは医学関係者でした（ご主人は千葉大医学部卒の開業医、三人のお子さんも医師と医学生）。一昨年の「卒業30周年記念クラス会」でお会いしたのが最後でした。ご冥福を祈ります。（平野武明）

#### 昭和41年卒業

先日、営業時代の後輩から「那波夫妻に宜しく」、「泉妻さんとサークルで一緒です」との連絡を受けた。あまり大きくない会社の渉外関係に何とかの機会に旧友の消息を知るというメリットがある。それや諸で昨年度はクラス会が開催されなかったが、タイ国から久しぶりに来日したブッサバ君をはじめ

○直接会ったり、元気な声が聞けた人

西山・葉・立崎・樋口・秋山・和田・妹尾・斉藤・奥田・高橋・井上・大石・深草・野嶋の各氏と同じ会社の成毛氏

日本メジフィジックス株式会社

代表取締役社長 瀬田 春生

東京本部 〒102 東京都千代田区九段北1丁目13番5号  
（日本地所第一ビル）  
電話（03）3234-2910  
FAX（03）3264-6749  
本社 〒662 兵庫県西宮市六湛寺町9番8号  
（三井生命ビル）  
電話（0798）26-7006  
FAX（0798）26-7646

BとEが、  
やはり効く。

肩のこり・腰の痛み・目の疲れ  
バイタエス  
第二の青春、健康増進の秘宝に、西宮市立病院の先生から、お褒めいただき、  
オトナアス、ビタエス配合



○元気で活躍の様子が入った人

相羽・石田・伊沢・小野・石井・佐々木・長岡・滝川・植原・谷口・横井・高瀬夫妻の各氏と前述の那波夫妻と泉妻氏で30名を越え、残りの諸兄は「便りの無いのが元気な証拠」ではある。

初孫の誕生も不思議でない年齢になると、年に一度位は温泉にでも入って昔話をしたいものである。群馬の宮前君や藤倉君に幹事をお願いしたく思っている。

(和田泰介)

#### 昭和43年卒業

11月3日文化の日、文化の杜上野の老舗・鶴松亭で、4年振りの若竹会がもたれました。老竹会にしてはとの皮肉な批評にも屈せず、バルセロナの年から「今回はアトランタの年」との合い言葉の下、昔変わらぬ面々が24名、喜々とした表情で語っているところは、竹の粘り腰を見たようであり、名前負けしていないと感じさせます。さすがに、年相応の話題が多くなるのは致し方ないにしても、まだまだ尽きることのない興味と旺盛なチャレンジ姿勢の話題も聞かれ、新たな刺激を受けた仲間もいたようです。二次会、三次会と名残尽きぬ時を過ごした後、今後は2年毎、次回、冬季オリンピック・長野大会の年の再会を約して四方に散った一日でした。

(見上 崇)



#### 昭和45年卒業

私は、山梨医科大学医学部附属病院に薬剤師として勤務しております。さて、薬剤師をめぐる最近十数年の変革は、それまでの数十年に相当するドラステックなものであると言われていますが、薬剤師は1. 医薬品の適正使用に対して責任をもつだけでなく、2. 臨床家の一員として患者への薬学的なケアが求められるようになってまいりました。現在、入院患者一人一人に対する医薬品の効果や副作用のモニタリングを手探りで行っております。

(河野健治)

#### 昭和46年卒業

昨年5月に、薬学科の数名が集まって、伊勢海老料理と臨海副都心の散策を楽しみました。孫の顔ももう真近かという人もいたりして年月の経過を感じました

が、仕事のこと、家族のことと、とりとめのないおしゃべりは学生時代そのままでした。

遅くなりましたが、中澤裕之さんが、国立公衆衛生院室長から、平成7年4月1日付で星薬科大学教授(薬品分析化学)に就任しました。心よりお祝い申し上げます。(望月エミコ)

#### 昭和47年卒業

今年のクラス通信の目玉は、当然二つ。一つ目は学部職員の移動にもある通り、目出たく石川 勉さんが教授(薬品製造学)に昇任されました。大学院同期の東大医科研・笹川千尋さん、東邦大薬・加藤文男さんと教授が三人になりました。そして二つ目は、あの森田 修さんが伊勢崎市議を辞職し、衆院選(群馬2区)に自民党公認で立候補しました。59,230票取るも、惜しくも次点となりました。捲土重来を期し、次回総選挙には国会議員と成られることを期待しています。

(上野光一)

#### 昭和55年卒業

昨年のクラス会に出席し、本当に久しぶりに懐かしい顔に会いました。皆それぞれの場で活躍している様子で、ちょっぴり貫禄が出て来たかなーと思いました。

立場の違った人ということでこの執筆がきたようですが、信州に住み、小売業の私は、クラスの仲間のことや薬学界のことには、疎くなっています。家事や子育てにも追われている毎日ですが、また命の洗濯しにクラス会に出ていくのを楽しみにしています。

(大飼邦江)

#### 昭和63年卒業

卒業して10年目を迎えます。皆、それぞれ社会人として、また父として母として活躍している様子を耳にします。皆さんご存じの通り、学生当時担任をして下さった廣瀬聖雄先生は昨年3月に停年退官なさり名誉教授になられています。また、山口明人先生は大阪大学産業科学研究所の教授になられました。お二人が学内にいらっしゃらないのは寂しい限りです。今度、是非お二人を招いて久々にクラス会を開きましょう。

(石井伊都子)

#### 平成7年卒業

卒業してから2年、大学院の修士課程へ進んだ仲間

たちも、それぞれの行先へと進んでゆく時期となりました。私を含め、卒業後就職した人たちは、仕事にも職場にも慣れ、そろそろ本領発揮(!!)といった頃ではないでしょうか。

卒業式以来、一堂に集まる機会がないのですが、そろそろ同窓会でも開けたら、と思っています。ずっと会っていない友達も案外多いのではないのでしょうか。お互い少しずつ、(中には大きく!!)変化していることと思いますが、きっと昨日会ったばかりかのように話せるでしょうね。(高島一恵)

#### 平成8年卒業

去年の3月に私達が学部を卒業してから、早いものでもう1年が過ぎようとしています。4年で卒業し社会に出ている人は、仕事にも慣れ、そろそろ余裕が出てくる頃かもしれません。一方、大学院に進学した人は、今年はほとんどの人が最終学年という事で、人それぞれ色々思う事があるでしょう。また、今年に入ってから本格格的に就職活動が始まり、忙しい毎日を送っています。自分に合った会社が決るといいなと思う今日この頃です。(宮崎裕代)

#### 平成8年度4年生

それぞれの夢を抱いて4年前にスタートを切った僕らは、今、一つのゴールを迎えようとしている。入学した全員がゴールすることができないのは悲しいけど、時は前にしか進んでくれないから、それぞれの想いを胸に僕は卒業することになる。今年は院に進む人が若干多く、また病院志向も強いようだ。どの道に進むにせよ、3月のゴールと同時に新たな夢へのスタートが待っている。僕は、また、走り始める。次のゴールに向かって。(伊藤貴夫)

#### 平成8年度3年生

1、2年の頃とは比べものにならないくらい忙しかった1年間も残りあとわずかとなり、実習やレポートに追われる日々も終わりかと思うと正直なところほっとします。しかしまだ期末試験という大きな山が待っている。最後まで気を抜かず楽しい春休みを迎えたいと思います。

4月になればもう4年です。研究室という新しい環境になるので早く慣れてがんばりたいです。

(長谷川貴志)

#### 平成8年度2年生

初めてファーマシー(薬学)という言葉に耳にした時、ファーマー(百姓)と関係あるのかなと思ったバカなぼくですが、そんな新鮮な驚きも消え、大学にも何となく慣れてきた今日この頃です。

薬学部といっても、まだ薬学の何たるかははっきりとわからない現状ですが、実験・実習が始まると少しは変わるのでしょうか?

今年は、新しい刺激を与えられ、もう少し勉強に集中していければと思います。(和泉伊佐久)

#### 平成8年度1年生

私達1年生が薬学部の一員となり、もうすぐ1年が経過しようとしています。入学当初は、大学生活とこれまでの生活との差異に少々戸惑いも覚えたことが、今では学部の雰囲気になんとか慣れました。若い時期の月日が過ぎゆく速さに驚きを隠せません。1年生を終了しようとする今、自身を素直に反省し己の未熟さを把握して、人類の健康と幸福を信じて日々努力し挑戦することを私達80余名は固く決意しているのです。

(右京芳文)

#### 藤井康男氏ご逝去

薬友会副会長として貢献いただいた藤井康男氏が平成8年11月にご逝去されました。ご冥福をお祈り致します。

#### 労働大臣許可 社団法人 埼玉県薬剤師会 薬剤師無料職業紹介所

求職の受付日 火・水曜日 (ただし、祝日、年末年始は除く)  
求人受付日 木・金曜日  
受付時間 9:30~11:30及び13:00~16:00

〒330 埼玉県大宮市土呂町1丁目50番地4  
TEL 048-653-5261  
FAX 048-653-5252

## 支部だより

## 神奈川支部

平成7年9月に、当支部の同窓会を開きましたが、平成8年は、スキップの年でした。しかし、平成9年の同窓会は、10数年前に催したことのある医学部と合同で行おうと考えております。そのための準備会を昨年10月医学部の神奈川ゐのはな会長富田裕先生（30卒、金沢区・金沢病院院長）宅で開きました。合同の同窓会は、おおよそ次の通り開くことになり、詳細については県内の方々には別途ご通知いたしますので、多数参加されますようお願いいたします。

- ・とき：平成9年6～7月
- ・ところ：横浜駅西口「ホテル リッチ」  
(村瀬一郎)

## 鹿児島支部

平成8年卒の鈴春江さんが加わり、吉水会長（28年卒）と小生（31年卒）で総勢3名となりました。

昨年11月に31年卒23名が2泊3日のクラス会のために鹿児島に乗り込んで来ました。現地の幹事として、吉水先輩に相談しながらいろいろと趣向を凝らしました。

2日目に、当地名物の台風の歓迎もあり、波瀾に富んだ3日間でしたが、同級生たちは霧島、指宿の温泉に浸りながら、南九州の晩秋を心ゆくまで堪能し、ゆったりとした行程の間、40年ぶりの旧交を温め、将来の計画などを語り合いました。

鹿児島支部としては、他の学年も、こののびやかな南九州の地で同窓会を催され、しばし忙中の閑を楽しまれることを期待します。  
(検見崎哲夫)

## 東京支部

本年は支部総会開催の年に当たり、晩秋に予定しております。役員の皆様、会員の皆様のご協力をお願い致します。東京支部の会員数は1,200名強を数えるようになりましたが、総会の出席人数はかばしくなく、特に卒業後10数年の社会で最も活躍している方々の出席が少ないのが悩みです。幹事会で相談し、前回の総会は、日本薬剤師研修センターのご協力を得て、認定研修の一つとして行いました。その効果があり、40年、50年代卒業の方々が相当数出席していただきました。今回も前回に引き続き、認定研修として、会員の皆様に興味を持っていただける様な企画を考えて総会を開きたいと存じます。ご意見、ご要望をお寄せください。  
(渡辺 楷)

## 亥鼻会

創立 平成5年3月24日

発起人 岩城謙太郎

世話人 岩城謙太郎（代表 S15）

市橋立彦（S12） 藤沢栄一（S13）

宗像小一郎（S14） 井上富夫（S22）

崎山晃正（S24）

会場・会費 ①日本橋倶楽部 昼食費含み5,000円  
会合経過

|     | 日 時     | 講 演 者          | 出席者 |
|-----|---------|----------------|-----|
| 第1回 | 5.3.24  |                | 43名 |
| 2   | 5.10.15 | 山崎薬学部長         | 57  |
| 3   | 6.3.24  | 荒木勉東京医薬品工業協会理事 | 46  |
| 4   | 6.10.17 | 渡辺教授           | 48  |
| 5   | 7.3.29  | 塩崎国夫薬剤師        | 59  |
| 6   | 7.10.17 | 畠本薬学部長         | 38  |
| 7   | 8.3.25  | 友田共立薬科大学長      | 39  |
| 8   | 8.10.17 | 鈴木周一前埼玉工科大学長   | 46  |
| 9   | 9.3.18  | 井瀬日出雄痛風友の会理事   |     |

なお会員の範囲は、千葉薬専 S10～S26卒業生有志  
(藤沢栄一)

## ゐのはな山岳会

平成8年の山行では何と云っても千米以上では我国最北端の利尻岳（1718m）が印象に残る。島全体が一つの山と云っても良い利尻岳は利尻富士とも呼ばれ、3合目まで車を利用してなお1400mの登降を要し、久しぶりのきついアルバイトだったが岩蔭に咲く可憐な高山植物に慰められて登頂を果たした（写真）。又8月の月山、前日の雨が嘘のように晴れた10月の恵那山も忘れられない。我々が月山登山中にゐのはな山岳会創立以来顧問として御指導頂いた萩庭先生が急逝された。昨年の春季山行にお誘いした折、「驛の階段にも苦勞するので今回は取り止めにします」との御返事を頂き、結局平成7年7月の櫛形山に同行されたのが最後となった。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

(吉田智子)





## 萩庭丈壽先生ご逝去を悼む

千葉大学名誉教授萩庭丈壽先生は1996年8月24日逝去されました。享年79歳でした。先生は仙台の旧制二高から東京帝国大学医学部薬学科へ進まれ、薬化学教室の助手を経て33歳の春助教として千葉の地に來られました。そのときの薬学部は、前年1949年（昭和24年）秋千葉医科大学薬学専門部から衣替えし千葉大学薬学部として記念すべき第一歩を踏み出したところであり、先生の足跡はそのまま学部発展の歴史と重なります。54年に教授に昇進、60年から2年間、64年から2年間と2度にわたって学部長をつとめられました。この間大学院博士課程設置、西千葉地区への移転、校舎、記念講堂新営など、数々の大事業をなしてあげられます。1982年停年御退官とともに千葉大学名誉教授になられ、89年には勲二等瑞宝章を受けられました。ご逝去後従三位が贈られています。

先生は近藤、落合の流れをくむ有機化学者としてマメ科アルカロイドを中心とする植物成分の研究で多大な業績をあげられました。その傍ら陣頭に立って、というよりほとんど独力で西千葉、館山の薬用植物園を現在の姿につくりあげられました。更に邦産野生顕花植物全種の学術標本作製という壮大な事業を自らに課せられ、個人のコレクションとして比類のない萩庭コレクションをまとめ上げられました。

先生にはこの傑出した大学人、研究者の顔の他にいくつもの顔がありました。テニスをよくし日本中の山々を踏破跋涉されたスポーツマン、寮歌、ゴンドラの歌に二高の情熱をうたうロマンチスト、漢詩中国古典からギリシャ神話、シェークスピアなど東西の古典に通じた博覧強記の書齋人、真剣に現代文明の行く先を心配する警世の論者など、数えたらば際限ありません。そんな中、良いお酒を飲んでいて、もう一本だけと指を立てて奥様にビールをねだられる、家庭人としての先生のお顔も忘れられません。亡くなられる3週間前にお薬書を頂きました。鹿児島行きを断るとの内容でしたがその中に「人生の醍醐味は意の如くならない處にあると云ふことを痛感する昨今ではある」とありました。スケールの大きい人生を最後まで正攻法で生き通した先生でした。

千葉大学薬学部教授 相見 則郎



## 坂口武一先生を偲ぶ

本学名誉教授、坂口武一先生は、去る2月2日、84才の天寿を全うされました。先生は新制千葉大学薬学部が発足した昭和25年3月に教授として赴任され、昭和53年に停年退官されるまで薬品分析化学教室を主宰されました。先生は金属キレート研究の第一人者として昭和40年に日本分析化学会学会賞を受けておられます。本学退官後は昭和58年まで新潟薬科大学で教育に当たられました。悠々自適の生活に入られた後も著作に励むなど終生学者としての姿勢を保ち続けられ、昭和60年には勲三等旭日中綬章を授与されました。告別式のとき先生の友人が「先生は良寛さんのような人でした。」と話しておられましたが、門下生一同、同感。学問一筋、生涯無垢な魂を持ち続けた誠実で優しい人柄を表した言葉と受けとめています。合掌。

千葉大学薬学部教授 今成登志男

## 薬友会より

### 平成9～10年 主な活動予定

- 9年5月 会報7号発行
- 7月 生涯教育セミナー
- 12月 役員会・常任理事会
- 10年5月 会報8号発行
- 7月 役員会・総会・生涯教育セミナー
- 12月 役員会・常任理事会

### 平成8年 活動報告

- 3月 新入生入会案内（終身会員96名入会）
- 5月 会報6号発行
- 7月 役員会（36名出席）、総会開催  
第5回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開催（千葉大学けやき会館）  
「薬物療法：来た道、行く道」（講師4名、参加者197名）
- 12月 役員会・常任理事会（37名出席）

## その他の活動のお知らせ

昨年に引き続き、ラジオ短波「薬剤師生涯研修用教材」を利用し、千葉大学薬学部教官と共に薬学・薬剤師教育について体系的・継続的に学習する「卒業教育研修講座」を開催致します。研修テーマ「薬物治療のためのファーマシューティカルケアを考える」。

日時：平成9年4/19、5/24、6/28、7/26、8/30、9/27。いずれも土曜日。午後2～5時。

場所：千葉大学薬学部第2講義室。

参加費：1万円。

参加希望の方はご連絡下さい（担当：奥石一郎  
Tel：043-290-2896）。なお、本講座は日本薬剤師研修センターの集合研修会の認定を受けますので、参加者には1回につき2単位の受講シールが発行されます。

## 資金協力をお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

- 1) 終身会員。会費2万円。昭和48年に開設。(現在50%加入) 会員名簿を無料で配布します。
  - 2) 寄付(1口2千円から)。特に、終身会費が1万円であった皆様、ご協力をお願いします。
  - 3) 会報、名簿への広告掲載にもご協力下さい。
- 申込みは、同封の郵便振込用紙をご利用下さい。

## 名簿委員会からのお知らせ

平成7年度名簿の記載内容に誤りのある場合は、同封の連絡カードでお知らせ下さい。乱丁本についてはお取り替え致します。住所変更等が生じた場合は、連絡カード(名簿綴じ込み)またはFAXにて速やかにご連絡下さい。薬友会への連絡の際は、1) 氏名のふりがな(索引作成上とても大切です)、2) 勤務先の正式名称と電話番号も忘れずに記入くださるよう特にお願い致します。氏名のふりがなや勤務先の正式名称が正しく登録されませんと、各索引に正しく記載されませんのでご注意願います。

平成7年度版会員名簿頒布のご案内

一部 5000円(会員価格)

終身会員以外の方でご希望される方は名簿係にお申込み下さい。

## 千葉大学創立五十周年記念事業

平成11年に千葉大学が五十周年を迎えます。今後いろいろな記念事業が計画されますのでご協力をお願い致します。

## 各種委員会役員名簿

- 総務委員会 ○澤井哲夫、高山廣光、石井伊都子、村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、野中浦雄(S42)、今成登志男(前委員長:アドバイザー)
- 財務委員会 ○高山廣光、澤井哲夫、石井伊都子、村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、野中浦雄(S42)、藤沢栄一(S13:アドバイザー)、奥石一郎(前委員長:アドバイザー)

名簿委員会 ○石井伊都子、澤井哲夫、高山廣光、村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、野中浦雄(S42)、関根利一(前委員長:アドバイザー)

事業委員会 ○堀江利治、小林 弘、石川 勉、池上文雄、懸川友人、北島満里子、大川幸子(S32)、山田和見(S32)、小川通孝(S34)、相見則郎(前委員長:アドバイザー)

会報委員会 ○渡辺和夫、渡辺敏子、額賀路嘉、樹淵泰宏、畑 品之、上野幸夫(S33)、加藤文男(S47)、角田範子(S52)、網 のぞみ(修2)、宮崎裕代(修2)、五十嵐一衛(前委員長:アドバイザー)(○印:委員長)

## 学部だより

### 医療薬学専攻2研究室新設

平成9年4月1日より大学院薬学研究科医療薬学専攻が設置されました。

これに伴い、基幹講座として薬物治療学研究室(矢野眞吾教授、上野光一助教授)、医薬品情報学研究室(上田志朗教授、望月眞弓助教授)の2講座が新設され、薬剤学、薬物学、病態生化学、病院薬学の4講座が協力講座となりました。

### 入試制度大幅に変更

平成9年度入試より推薦入試、帰国子女枠、後期日程での総合テストなどを導入し、個別学力検査の制度が大きく変更になりました。各入学試験の概要は以下の通りです。

| 種 別  | 実施日    | 定 員 | 志願者数 | 合格者 | 試験内容    |
|------|--------|-----|------|-----|---------|
| 推薦   | 11月30日 | 10名 | 109名 | 10名 | 面接、小論文  |
| 帰国子女 | 12月1日  | 若干名 | 4名   | 1名  |         |
| 前期日程 | 2月25日  | 49名 | 345名 | 52名 | 理、数、外国語 |
| 後期日程 | 3月12日  | 21名 | 279名 | 26名 | 総合テスト   |

### 千葉大学薬学部ホームページ開設のお知らせ

インターネット上に薬学部ホームページ(表紙写真)が開設されました(<http://www.p.chiba-u.ac.jp/>)。電子メールサーバーとWWWサーバーが図書室にある2台のワークステーション(表紙写真)により運用されています。また千葉大学のホームページ(<http://www.chiba-u.ac.jp/>)からは薬学部の他にもいろいろな学部、施設の情報を得ることができます。接続可能な方は是非御覧下さい。

# 1996年度主催学会

| 日 程            | 学 会 名                                                                                         | 場 所              | 主催研究室・代表者                                   |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|---------------------------------------------|
| 平成8年6月25日～28日  | 第13回フォトポリマーコンファレンス                                                                            | 中央大学駿河台記念館       | 薬品物理化学研究室 津田 穰                              |
| 平成8年6月27日～28日  | 第75回日本細菌学会関東支部総会                                                                              | 千葉大学けやき会館        | 微生物薬品化学研究室 澤井哲夫                             |
| 平成8年11月27日～29日 | NRCT-JSPS core university system joint seminar "Current Advances in Natural Product Research" | タイ・チュラロンコーン大学    | 生体機能性分子研究室 相見則郎<br>東大・薬・生薬学・海老塚豊<br>植物化学研究室 |
| 平成8年12月4日      | 日本学会化学系物理系薬学研究連絡委員会シンポジウム<br>有機化学 ―新世紀への展望―                                                   | 東京大学薬学部記念講堂      | 薬品合成化学研究室 中川昌子                              |
| 平成8年12月28日～29日 | メタロチオネン96                                                                                     | 千葉大学けやき会館        | 衛生化学研究室 鈴木和夫                                |
| 平成9年1月21日      | 千葉大学有機化学シンポジウム('97)<br>新しい有機金属試薬の開発と有機合成への応用                                                  | 千葉大学自然科学研究科棟大会議室 | 千葉大学理、工、薬化学系合同                              |

## 1996年度卒業生の進路

学 部 進 学：千葉大学大学院42名、他大学大学院3名  
就 職：協和発酵2名、三共2名、その他企業19名、病院・薬局7名、その他9名  
修 士 進 学：千葉大学大学院6名、他大学大学院2名  
就 職：三共2名、トーアエイヨー2名、日本レタリー2名、三菱化学2名、持田製薬2名、  
その他企業26名、病院3名、公務員3名、その他3名  
博 士 就 職：4名 その他：1名

## 1997年度 薬学部入学者出身校別一覧

|                                           |                                                     |
|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 22名 東京都（共立女子2名、豊島岡女子学園2名、両国2名、他16校各1名）    | 4名 長野県（4校各1名）                                       |
| 17名 千葉県（千葉3名、東邦大学附属東邦3名、船橋3名、佐倉2名、他6校各1名） | 3名 埼玉県（3校各1名）                                       |
| 8名 神奈川県（桐蔭学園3名、他5校各1名）                    | 2名 栃木県（宇都宮女子2名）                                     |
| 静岡県（磐田南2名、他6校各1名）                         | 新潟県（2校各1名）                                          |
| 4名 青森県（青森2名、他2校各1名）                       | 1名 秋田県、沖縄県、群馬県、富山県、長崎県、福岡県、宮城県、宮崎県、山口県、和歌山県、アメリカ合衆国 |
| 茨城県（4校各1名）                                |                                                     |

## 職員の異動（1996. 5～1997. 4）

|                                             |                                         |
|---------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 96. 5. 1<br>千葉 寛 教授 採用（薬物学、国立国際医療センター研究所より） | 97. 3. 31<br>山崎 幹夫 教授 停年退官（活性構造化学）      |
| 仲佐 啓詳 助手 配置換（病院薬学、医学部附属病院薬剤部へ）              | 石井 永 教授 停年退官（薬品製造学）                     |
| 石井伊都子 助手 所属講座変更（医療薬理学）                      | 97. 4. 1<br>成松 顕雄 助教授 転任（生物薬剤学、岡山大学教授へ） |
| 柿沼 喜己 助教授 昇任（臨床化学）                          | 上田 志朗 教授 昇任（医療薬学専攻医薬品情報学、千葉大学医学部より）     |
| 96. 8. 1<br>石川 勉 教授 昇任（薬品製造学）               | 矢野 眞吾 教授 昇任（医療薬学専攻薬物治療学）                |
| 96. 8. 16<br>藤川 友人 助教授 昇任（生化学）              | 上野 光一 助教授 配置換（医療薬学専攻薬物治療学）              |
| 小口 敏夫 助教授 昇任（製剤工学）                          | 望月 眞弓 助教授 採用（医療薬学専攻医薬品情報学、北里大学病院より）     |
| 96. 12. 31<br>小泉 利明 助手 辞職（衛生化学、千葉薬品へ）       | 細川 正清 講師 昇任（薬物学）                        |
| 97. 1. 1<br>小椋 康光 助手 採用（衛生化学、産業医学総合研究所より）   | 堀江 俊治 講師 昇任（薬品化学）                       |
| 齋藤 浩美 助手 採用（生化学、昭和大学より）                     | 中村 智徳 助手 昇任（活性構造化学）                     |
|                                             | 土屋 静子 助手 昇任（薬品化学）                       |
|                                             | 熊本 卓哉 助手 採用（薬品製造学、名古屋大学理学部より）           |

# 1996年度学会賞受賞者一覧

| 受賞月日      | 学会名・賞名             | 受賞者  | 受賞業績題目                  |
|-----------|--------------------|------|-------------------------|
| 平成8年7月18日 | 日本薬学会 宮田学術賞        | 鈴木和夫 | 生体による銅の制御とメタロチオネインの役割   |
| 平成8年11月6日 | 粉体工学会 製剤と粒子設計部会学術賞 | 山本恵司 | 製剤添加剤と医薬品の相互作用の解析に関する研究 |

## 1996年度博士学位授与者一覧

### 甲号（博士後期課程）

氏 名 題 目

（平成9年2月19日）

- 木村 友美 テトラサイクリン排出タンパク質のタンパク質学的研究  
 山田 秀宜 光学活性アミンの不斉合成—イミンの不斉還元および不斉アルキル化反応  
 楊 志軍 製剤添加剤との相互作用を利用した難溶性医薬品の可溶化機構の検討  
 米田 信次 セレンと水銀の相互作用による毒性軽減機構の解明  
 芮 茗 先天性銅代謝異常症における毒性発現機構の解明

### 乙号（論文審査）

氏 名 卒業（修了）年度、所属 題 目

（平成8年7月17日）

- 安藤 徹 昭和52年卒、鳥居薬品 ゲニ主要アレルゲンとプロテアーゼとの関連に関する研究  
 浅野 誠 昭和59年卒、東亜合成 固形癌の増殖における血管内皮増殖因子（VEGF）の役割に関する研究—中和抗体による固形癌増殖抑制—  
 小川 達洋 昭和60年卒、協和発酵工業 微生物由来のエンドセリンアンタゴニストに関する研究  
 秋元 克哉 昭和54年卒、第一製薬 塩酸イリノテカンの水溶液中におけるラクトン環開環反応及び光安定性に関する研究  
 木下 美弥 昭和56年卒、田辺製薬 新規抗消化性潰瘍薬エカベトナトリウムの胃粘膜保護作用の機序に関する実験薬理学的研究  
 額賀 路嘉 平成2年卒、千葉大学薬学部  $\beta$ -ラクタマーゼの基質特異性に関する研究  
 （平成8年12月18日）  
 渡辺 大一 昭和57年～59年研究生、富士レビオ 密封加熱法によるシクロデキストリン包接化合物形成に関する研究  
 川邊 良樹 昭和61年修了、中外製薬 コレステロール蓄積と脂質代謝に関する研究  
 杉山 茂 昭和30年卒、カイノス 中・近世における外郎（うしろ）家と売薬・透頂香（とうちんこう）の展開に関する薬史学的研究  
 武立 啓子 昭和48年卒、東京女子医科大学病院 医薬品副作用情報の収集と利用性に関する情報学的研究  
 山崎真也子 昭和63年卒、藤沢薬品工業 ラットの中枢神経機構に及ぼす加齢並びに神経破壊の影響に関する行動薬理学的研究—特にコリン—セロトニン—ソマトスタチン神経経路の相互連絡の解析—  
 星野 一樹 昭和59年卒、第一製薬 キノロン剤の作用機作に関する研究  
 （平成9年3月19日）  
 松岡真由美 昭和58年北海道薬科大学卒、同大学 黄色ブドウ球菌におけるマクロライド系抗生物質耐性に関する研究  
 中村 智徳 平成3年修了、千葉大学薬学部 和漢薬・民間伝承薬由来の向神経活性成分に関する化学的、薬理学的研究  
 小川 義光 昭和56年修了、ツムラ 生物活性フラクトリド関連化合物の合成研究  
 碓井 孝志 昭和56年卒、山之内製薬 骨吸収抑制剤 Incadronate の体内動態に関する研究  
 池田 陽子 昭和60年卒、大正製薬 抗原特異的免疫反応におけるT細胞クロノタイプの解析

## 第6回千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

平成9年度の千葉大学薬友会主催の生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）を、会場も恒例となりました大学正門脇の「けやき会館」にて開催いたします。今、くすりの世界は大きな展開を遂げつつあります。薬事法・薬剤師法の改正により、薬剤師の果たすべき役割は益々重要になってきております。くすりの本質を知り、生体との関わりを理解してくすりを活用していきたいものです。今回も様々な立場の講師がわかりやすく「くすりの世界」を解説いたします。どうぞこの機会に是非母校において頂き、セミナーにご参加いただきたくご案内申し上げます。

1) 主 題：「今くすりとは？」

2) 演題と講師

・薬友会会長挨拶 今成登志男（千葉大学薬学部長）

1. 「細菌の強かな生命力」

小林 弘（千葉大学薬学部教授）

2. 「患者が薬を嫌がる時」

佐藤邦雄（群馬大学医学部第二内科講師）

3. 「薬事法・薬剤師法改正に対応する薬剤師の情報提供のあり方」

土屋文人（帝京大学医学部附属市原病院 薬剤部長）

4. 【宮木高明記念講演】

「薬学の歴史をふりかえる

— “これから”への期待をこめて—

山崎幹夫（千葉大学薬学部名誉教授）

3) 日 時：平成9年7月12日（土）午後1時～5時

引続きミキサー（懇親会）を行います。

4) 場 所：千葉大学大学ホール（けやき会館）

千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス内  
（JR西千葉駅北口より南門経由で徒歩7分、または京成電鉄  
みどり台駅より正門経由で徒歩6分）

5) 参加予約の方法：同封の申込用紙に、参加者氏名、住所、卒業  
年次、職業をご記入の上、下記郵便振替口座に参加費をお振込  
みください。

00150-5-551796 千葉大学薬友会

参加予約締切：平成9年6月27日（金）

6) セミナー参加費：1,500円（予約時）

2,500円（当日、非会員）

7) ミキサー参加費：2,500円（予約時）

3,000円（当日、非会員）

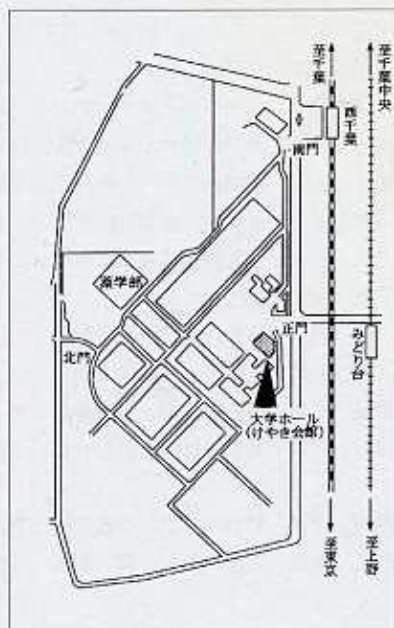
8) 連絡先

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学薬友会事業委員会（担当 堀江利治）

TEL 043-290-2934 FAX 043-255-1574

なお本セミナーは日本薬剤師研修センターの認定セミナーと  
なります。



けやき会館

### 編集後記

西千葉キャンパスの桜は例年にない早い開花で、春休み中のひと気の少ない校内には、もったいないように華やいだ春風が吹き抜けています。この時期に手順よく会報の完成を見ることができ、編集委員一同、ホッとしました。特集「医療薬学動き出す」は薬学部の大きな飛躍の象徴として御覧いただけたと思います。薬剤師卒業教育の充実、卒業生の相次ぐ学位取得などと併せて、母校と卒業生の絆を強くする会報の役割は益々大きくなるでしょう。薬学部の動きをリアルタイムで知って頂くホームページも大いに活用下さい。千葉大学創立五十周年記念事業へのご協力もよろしくお願い申し上げます。

会報委員

渡辺和夫（委員長）、渡辺敏子、額賀路嘉、榊湖泰宏、畑 晶之、上野幸夫（S33）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、網のぞみ（院生）、宮崎裕代（院生）